

令和7年度 今市まちづくりセンターの主な取組

事業名

親子でカブト「ホタル観賞と虫むしイベント」

P

●事業実施に至った背景、目的

【背景】

親子で活動する事業「親子でカブト」を実現させる為、まちづくりセンター運営推進委員より「20数年前にホタル観賞と茶会を行っていた、それを復活させたい」と提案があった。

ホタルだけでは集客が難しく、茶道サークルはもう解散しているので、地元でカブトムシ博士として有名な中学生（旭中学校2年男子生徒）に講師になってもらい、カブトムシにまつわるイベントにしようということになった。

【目的】

①親子を対象に地元の自然を活かした野外教育の実施 ②カブトムシ博士の研究発表の場

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打合せ等)

当日のホタル観賞ルートを運営推進委員が検証し決定。カブトムシ博士へのオファーを多方面から実施、快諾してもらう。運営推進委員他、地元の方からカブトムシの幼虫約50匹の提供を受ける。幼虫飼育のノウハウや蛹での受け渡しについての工夫や技術指導をカブトムシ博士とその助手（親）より協力いただいた。プログラムは、博士たちと相談しながら作成した。

旭図書館から協力を得て、館内にホタルとカブトムシの図書コーナーを設ける。

広報では、開催直前に旭支所防災自治課・産業建設課でも告知いただけた関係で島根あさひ社会復帰促進センター関係者等、旭町以外の親子参加も希望があり、受け入れた。

D

●事業の概要

日程：2025年6月21日（土）18:30～20:20頃

参加：39名（大人19名、小学生17名、未就学児3名）／見守り隊：3名（運営推進委員）

講師：2名（カブトムシ博士、助手）

カブトムシについては、カブトムシ博士（助手）が担当し、ホタルについては、昆虫好きのまちセン主事が担当した。その他「リアルな虫型おやつレシピの紹介」や「折り紙で立体イモムシに挑戦！」博士の研究・図書観覧タイムを設け、ホタル観賞の時間まで調整できる内容で進行した。

ホタル観賞では、まちセン手製の「あんどん」をもち、参加者に配布したホタルカードにホタルの数を記入してもらい、平均数（17匹）を割り出した。

C

●事業実施後の振り返り

開催日程は、学校行事や旭町内他地区のホタル祭と被らないように設定した為、ホタルの見ごろとしては終盤且つ夏至開催になってしまった。

ホタル観賞の夜間観察では、見守り隊3名を判別リーダーに任命し観察班を分けたほうが良かったと反省した。

カブトムシの幼虫は、配布時期「蛹状態」であるため牛乳パック装置を作成し配布。生育状況が悪く子どもたちにとっては残念な結果になった。しかし、カブトムシ博士から自然界・人工飼育ともに成虫になることの難しさ、生育に失敗した実物の蛹を観察させるなどの工夫があり良い学習機会になったと思われる。

A

●今後の方向性

親子カブト事業は、今市地区内の自然を活用し今後も継続していきたい。

引き続き、今回講師として携わってくださった住民、運営推進委員の知恵をお借りしながら子どもたちの関心を引く事業の模索をし、来年度計画を立てていきたいと考えている。

▼カブトムシについての発表の様子



▶雄雌識別作業の様子



▼配布された博士の研究資料と工作物



▶後日、博士が飼育した成虫の提供があり、希望家族に配布した。

